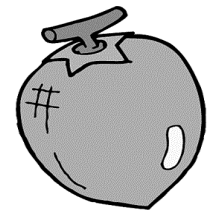


柿栽培技術情報（5月の管理）



令和3年4月27日

宮城県大河原農業改良普及センター

《5月の管理のポイント》

4月9日から12日にかけての低温に伴う凍霜害が発生しています。
新梢管理、病害虫防除を確実に行いましょう。

1 凍霜害を受けた場合の対策

（1）新梢管理

発芽期に凍霜害を受け芽が枯死すると、遅れて副芽や不定芽が発芽し新梢が混み合ってくる場合がありますので、新梢管理を徹底します。

（2）病害虫防除

病害虫の被害を受けやすくなりますので、翌年の収穫に向けて必要な病害虫防除は確実にを行います。

2 5月の栽培管理

（1）授粉の準備

かきは、管内では6月上・中旬に開花します。

かきは虫媒花であり、訪花昆虫はミツバチが最も多いです。したがって、ミツバチの放飼の効果は高く、結実率が向上します。

（2）芽かき

- 骨格となる枝の直上に発生した新梢や、枝が伸びる方向に逆行する新梢は、早めに除去します。
- 大きな切り口に発生した新梢は、切り口に近いものを数本残して整理し、切り口のゆ合を促進します。
- 弱い新梢は、次の年の側枝に育成することもできます。

2 病害虫防除

病害虫の発生時期は、気温が平年より高く経過しているため早まり、凍霜害により発生量も多くなることが予想されますので、生育状況などを確認し、早めに防除を行います。

害虫では、ハマキムシ類やケムシ類（クワゴマダラヒトリ）の発生が確認されているので、表1の防除事例を参考に防除を行います。

（1）炭そ病

炭そ病は白石市、丸森町での発生量が多く、重要な病害です。

新梢の発病を徹底して防ぐことが重要で、樹形が乱れても病斑枝の切除を徹底します。

イ 発生生態

- 病原菌は枝の病斑の中で、菌糸の状態越冬しています。
- 3月下旬頃からの降雨で病斑の表面がぬれると胞子をつくり、第一次伝染源となります。

- ・ 胞子は雨水で伝搬され、新しい組織に侵入します。7～10日の潜伏期間を経て、降雨があると新しい病斑上に胞子をつくり、第二次伝染源となって被害が拡大します。
- ・ 5月～6月にかけて降雨が多いときは、新梢や幼果の発病が多くなります。
- ・ 8月に高温・乾燥期間が続くと一時沈静化しますが、気温が下がる8月下旬以降に降雨が続くと、果実の発病が激しくなります。

□ 防除のポイント

- ・ 耕種的対策
被害枝や被害果は切除して、園地外へ処分します。
- ・ 薬剤防除
重点防除時期は6月中旬～7月中旬、8月下旬～9月下旬です。炭そ病菌は雨水で感染拡大しますので、週間天気予報を注視し、降雨前に薬剤防除を実施しますが、散布後1～2日程度は降雨のない日に防除すると効果が高くなります。



炭そ病の新梢病斑

(2) 円星落葉病

円星落葉病は管内での発生量が多く、重要な病害です。

イ 発生生態

- ・ 病原菌は、落葉の病斑内部で越冬しています。
- ・ 4月以降になると子のう殻をつくり、その中にできた子のう胞子は、風雨により飛散します。
- ・ 感染時期は5月中旬～7月上旬です。
- ・ 感染後2～4か月の潜伏期間を経て、9月上旬頃から発病をはじめ、9月中旬～下旬にかけて急激に発病します。
- ・ 生育期の病斑上では胞子ができないので、二次感染はありません。

□ 防除のポイント

- ・ 落葉処理
被害落葉は集めて土中に埋めるなど、適切に処分します。
- ・ 薬剤防除
重点防除時期は5月～7月です。特に6月の防除を徹底します。



円星落葉病の秋の病斑

(3) 角斑落葉病

イ 発生生態

- ・ 病原菌は落葉中の菌糸で越冬しています。
- ・ 5月下旬～6月上旬頃、落葉上に分生胞子をつくり、風雨により飛散します。
- ・ 一次感染の主要な時期は、6月中旬～7月中旬です。
- ・ 感染後1か月の潜伏期間を経て、7月頃から発病をはじめ、落葉時期にかけて発病します。
- ・ 葉の病斑上に分生胞子がつくられ、二次感染を引き起こします。

□ 防除のポイント

円星落葉病と同じです。

(4) カキクダアザミウマ

カキクダアザミウマは若葉や果実を加害する害虫です。

イ 生態

- ・ 年1回の発生です。
- ・ 成虫態で樹皮のすきまにもぐり、集団で越冬しています。
- ・ 4月に越冬成虫が飛来し、若葉を縦に巻き、その中で産卵し、5月には第1世代幼虫が発生します。
- ・ 第1世代成虫は6月に幼果を加害し、果実に黄褐色の小斑点が輪状にあらわれます。
- ・ 7月下旬までには、かき、まつ、すぎなどの樹皮下に移動します。

ロ 防除のポイント

- ・ 巻葉は見つけ次第除去します。
- ・ 薬剤防除は5～6月に実施します。

表1 5月のかきの病虫害防除事例

令和3年4月7日現在

散布時期	主な対象病虫害	薬剤名	作用機構分類	希釈倍率	使用時期	本剤の使用回数
5月上旬	炭そ病 落葉病	チオノックフロアブル	FRAC: M03	500倍	収穫30日前まで	2回以内
	カキクダアザミウマ	オルトラン水和剤	IRAC: 1B	1,500倍	収穫45日前まで	2回以内
開花直前 5月下～ 6月上旬	炭そ病 落葉病	デランフロアブル	FRAC: M09	2,000倍	収穫90日前まで	5回以内
発生初期	ハマキムシ類 ケムシ類	オリオン水和剤40	IRAC: 1A	1,000倍	収穫21日前まで	1回
	ハマキムシ類 ケムシ類	フェニックスフロアブル	IRAC: 28	4,000倍	収穫7日前まで	2回以内

※ 農薬使用上の注意

- ・ 使用回数はその農薬の使用回数を示していますので、農薬を使用する際には、その剤の使用回数と含有する成分ごとの使用回数に注意してください。
- ・ 農薬散布を行う場合は、事前に最新情報で農薬登録を確認の上、使用してください。また、農薬使用の際には飛散防止対策を講じてください。